

『東北応援ツアー』へ参加する前の私は、テレビや新聞の報道で『東日本大震災』について、理解しているつもりだった。しかし、現場の空気を肌で感じないと被害の大きさ、そして復興に向けたパワーを感じることができないと思った。

1泊2日の日程は内容が濃く、アツという間に過ぎた。その中で、特に印象に残っていること、3点を挙げていきたい。

① 被災地視察－南三陸町

語り部のお話と共に、当日の津波の勢いを思い知らされたのが、防災対策庁舎。鉄筋だけが残った外見を目の当たりにし、自然と涙が流れた。

防災担当の24歳の女性が、最後まで無線で「高台へ逃げてください。」と住民に避難を呼びかけたこと。覚悟のアナウンスは落ち着いていたと聞き、彼女の使命感を感じた。そして、その声を聞き、高台へ向かい、多くの町民が助かったこと。たくさんの方々の気持ちを現場から、察した。全員で黙祷を捧げ、現実について考えさせられた。

② 株式会社ささ圭

校友の先輩、佐々木圭亮さん、靖子さん、御夫妻の講演は、被害の数字の大きさに驚いたが、次に向かって進んでいくお二人の姿から、私の方がパワーを頂いた。

名取市・閉上さいかい市場にて、『福興 手わざ笹かまぼこ 希望』を買った。これまでの思いが詰まっており、一口一口、噛みしめた。改めて、ここは水産業のまちなんだと感じた。そして、再建への道のりや名産について、地元・北海道へ伝えていくことが、私が今、できることだと思った。

③ 校友の仲間が全国にいること

宮城県コースには、福島・埼玉・京都・富山・徳島…色々な地域から、幅広い年代の方々が参加した。熱い気持ちで集まった皆さんとは、すぐに意気投合し、じっくり語り合い、温かい時間を過ごしました。

もし、この先何が起きても、全国に支え合える仲間がいることは心強いと実感した。

参加後の私は、毎日、「自分が北海道で出来ることは何だろう？」と問い続けている。現地の方々が、「今回見たこと、感じたことをどんどん地元へ発信してほしい！」とおっしゃっていた言葉が、心に残っている。まずは、地元へ情報を発信していくことが役目だと感じている。共感してくださる仲間を見つけ、北海道から何が出来るか？について、これから考えて形にしていきたい。

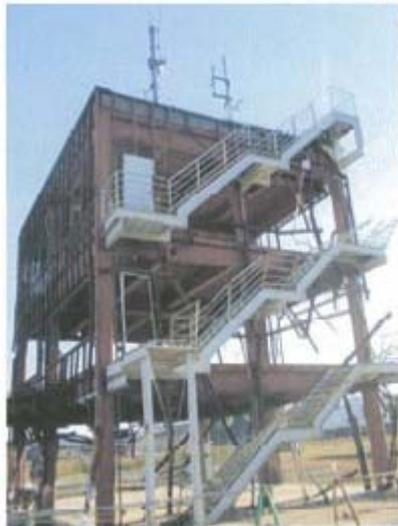
【現地の写真】



仙台空港 1階 青いラインー津波到達の高さ
私は 153cm のため、約 2 倍の高さの津波。



防災対策庁舎ー正面
気づきの多い現場だった。



防災対策庁舎ー屋上へ繋がる階段
自然の脅威を痛感した。



懇親会ーサッカー元日本代表松井大輔選手
プロデュースの T シャツで心を 1 つに！



名取市・閑上さいかい市場
酒屋・写真館…色んなお店が並んでいる。



株式会社ささ圭ー佐々木圭亮さん、靖子さん
プリップリッの笹かまぼこ、最高！！